

## ◆近代座間の道 史跡散策ガイド

### ① てんのうおおなわみち 天王大縄道

鈴鹿明神社の参道前を東西に横切り相模川方向へ延びる道路。藤沢街道から旧八王子街道までの約五〇〇mほどの区間を東西に結ぶ生活道路で、「天王様」として信仰を集める鈴鹿明神社の例大祭では神輿が往復する道としても用いられていた。道中には相模川左岸用水路に架けられた堰の橋や、現在は暗渠となっている谷戸堀橋などが存在する。



### ② てんしょうこうたいじんぐう 天照皇大神宮

入谷地区に所在する座間山心岩寺の別当にあたり、棟札の記載から社殿の創建は慶長 19(1614)年とされる。地元の人々からは西宮さんと呼ばれ、河原宿区民の鎮守として慕われてきた。境内の規模が大幅に縮小し、現在では集落の一角に小祠をとどめるのみだが、大正・昭和前期頃までは松・杉・桜などをさまざまな種類の樹木が植えられ、境内地もいまより大きかったとされる。



### ③ しんはとがわぼし 新鳩川橋

古くは新田橋と呼ばれており、江戸時代にもその名が確認できる。関東大震災によって木橋が破損し、仮設の土橋を足場に復旧工事が行われたことで、昭和初年には新たなコンクリート橋が架けられることになった。昭和 26(1951)年に行われた鳩川の流路変更工事の結果、流域が現在地に移動したため、旧橋は解体され、現在の位置に移動したと考えられる。



#### ④ 諏訪明神社

慶長 9(1604)年に修験者が創祀したと伝えられ、旧社格は村社。神官新田家に伝わる諏訪明神社文書は、近世～近現代にいたる新田宿地域の社会・経済・風俗や、地域の祭礼の様子などを知るうえで不可欠な史料である。



#### ⑤ 道路改修記念碑

相模川河畔へ向かう「相模川行き通り」と、新田宿の南側へ通じる「新田宿表通り」の道路改修を記念して昭和 9(1934)年に建てられた記念碑。両道路の起点にあたる諏訪明神社前に現在も設置されている。碑文の作成にあたっては、新田宿区民の代表者と小田急関係者などが協議を重ね、草案の改定が幾度もなされたことが記録からわかる。なお、当初の建造予定地は現在地よりも東側に想定されており、境内の外に設置される構想があったと思われる。



#### ⑥ 関東大震災記念碑

本記念碑は、関東大震災によって倒壊した旧鳥居の中貫部を利用して建てられたものである。石碑末尾の記載より、昭和 3(1928)年 9 月に新田宿部落民の手で建立されたことがわかる。その内容からは、「橋梁」の崩落や「道路堤塘」の亀裂・破壊など社会インフラに甚大な被害が出たほか、家屋の損害も全壊 24、半壊 62 などきわめて多数にのぼったことが知られる。新田宿における被災と復興の記憶を現在に伝える貴重な歴史の証言である。



## ⑦ だいにちによらいどう 大日如来堂

創建は不明だが、寛永 3(1626)年には入谷心岩寺末寺日照山金剛院としてみえ、江戸初期にはすでに実在したと考えられる。河原宿区民の手で守り伝えられてきた村堂であり、地元の人々からは大日堂の通称で親しまれている。関東大震災による被災をきっかけとして、現在地へ移転したとされ、街道筋の利点を活かして、旧所在地には生系の繭の買出場がもうけられたこともある。現在もお堂の敷地内に建つ鉄製の櫓は、河原宿の町内基金を元手に大正末年ごろつくられた物見櫓が起源と考えられる。



## ⑧ ほんざまていりゅうじょう 本座間停留場

かつて河原宿に存在した相模鉄道株式会社（現相鉄グループ）の停留場。昭和 6(1931)年の橋本・茅ヶ崎間全面開通にあたって、周辺の駅と同時に開業した。駅の設置位置をめぐるのは、地元住民と鉄道会社の間で長期にわたる交渉がもたれたが、結論が二転三転するなどの紆余曲折があった。戦時中の昭和 19(1944)年に廃駅となり、その役目を終える。鉄道駅としての実働期間は 15 年弱と非常に短く、現在では駅入り口のメインストリートと停留場跡の敷地がわずかに往時の面影を伝えている。

## ⑨ かわらじゅくぼし 八王子街道と河原宿橋

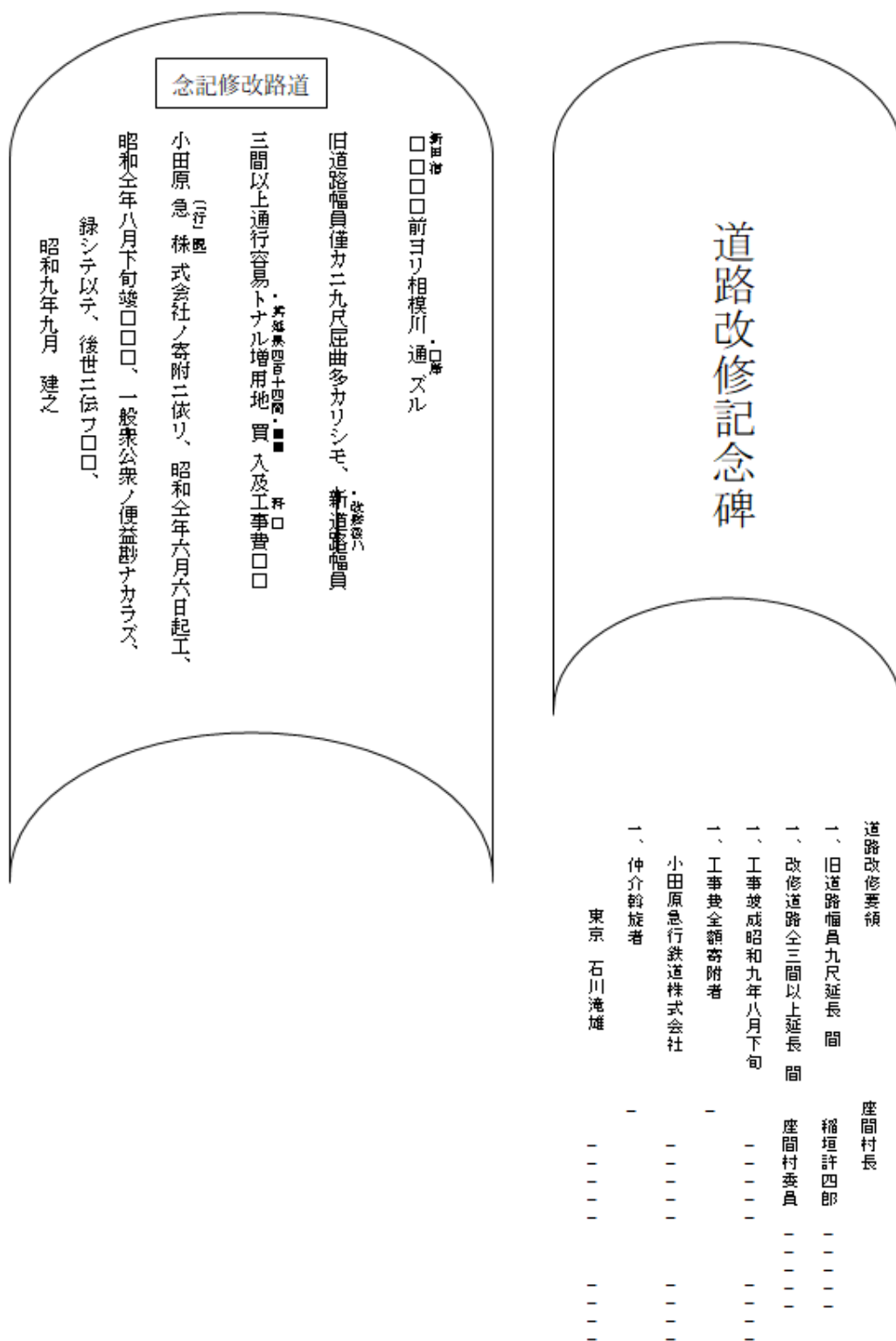
八王子街道は、別名浜街道とも呼ばれ、主要街道のひとつとして江戸期より栄えた。明治以降には、八王子・横浜間を直結する交通路としても重視され、当時地元の代表的な輸出品であった相武産の生糸はこの道を経由して輸送された。現在は、JR 相模線の線路が縦断しており道筋がわかりにくいですが、集落内を北東～南西方向へ貫く古道である。



河原宿橋は昭和 9(1934)年 6 月に完成しており、すぐ南側に架かる本座間橋も同じ年の創建である。相模川左岸用水路にかかるその他の橋の橋銘板にもやはり昭和 9 年の文字が彫られており、おそらくは同用水路の完成記念として建造された橋脚群の一部と考えられる。



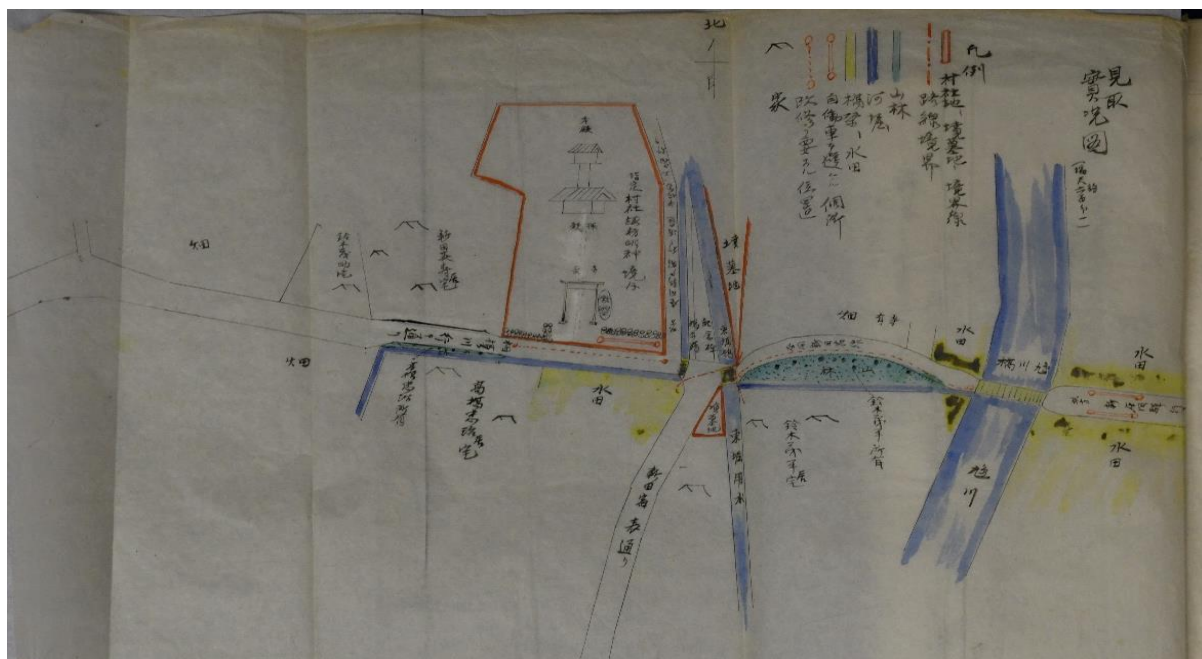
●道路改修記念碑（原案） 翻刻文



## ●旧鳩川橋の位置

「御改修成し下され候新田宿里道相模川行き通りの界境点より以東、新座間駅に向い、鳩川橋迄の間、**約二十六間**の個所—由来本路線（座間・新田宿線）」（昭和10年8月）

※ 二十六間 =  $1.8\text{m} \times 26 = 46.8\text{m}$



「小田急関係不用雑書」『加藤秀司氏旧蔵文書』



●参考



大正十年測図昭和四年鉄道補入図(大日本帝国陸地測量部)